

令和7年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立みさか小学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	66.8%			○		
算数	58.0%					○
理科	57.1%					○

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9%					○
情報の扱いに関する事項	63.1%	○				
我が国の言語文化に関する事項	81.2%					○
話すこと・聞くこと	66.3%			○		
書くこと	69.5%	○				
読むこと	57.5%					○

【考 察】

- 「漢字を文の中で正しく使う問題」や、「資料を読み言葉の変化や違いに気づく問題」の正答率が全国平均を大きく上回りました。日々の授業において、漢字の定着確認を継続的に行い、語彙力の向上に努めてきました。また、読書活動の推進や、朝の会でのスピーチ活動を通じて、自分の思いや考えを言葉で表現する機会を大切にしてきたことも成果につながってきたと考えられます。
- 「情報と情報との関連付けや、図などから読み取ったことを説明する問題」や、「書く内容を明確にし、段落関係から文章を考える問題」に課題が見られました。今後は、複数の情報から必要な情報を選んだり、情報を整理したりする活動を通して、判断したり表現したりする力を高められるように指導していきます。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	62.3%					○
図形	56.2%					○
測定	54.8%		○			
変化と関係	57.5%					○
データの活用	62.6%					○

【考 察】

- 「棒グラフから項目間の関係を読み取る問題」や、「異分母分数のたし算について共通する単位分数を見出す問題」、「図形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題」の正答率が全国平均を大きく上回りました。日々の授業の中で、分かったことを式や言葉、図などを用いて説明する活動を取り入れてきたことが力につながってきたと考えられます。
- 「測定」の領域では、「はかりの目盛りを読む問題」が全国平均を下回りました。

今後、日常的な場面と関連付けて理解させるとともに、理解したことを友達に説明することで、測定方法等を正しく理解できるような指導を大切にしていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
エネルギー	46.7%					○
粒子	51.4%					○
生命	52.0%					○
地球	66.7%					○

【考察】

- 「エネルギー」の領域では、電気回路の作り方について実験方法を発想する問題や、電磁石の強さの問題の正答率が全国平均を大きく上回りました。これは、実験を通して仮説を立てたり、条件を変えて比較したりする活動を積極的に取り入れ、子どもたちが自ら考え、工夫しながら学ぶ機会を大切にしてきた成果と考えられます。
- 「地球」の領域では、「結果を基に結論を導いた理由を表現する問題」や、「知識を基に概念的に理解しているか問われた問題」に、課題が見られました。知識を活用して、自分の考えを言葉で説明したり、目に見えない科学的概念を言語化して理解したりする力は重要です。今後、観察や実験の結果を根拠にして説明する活動を通して、科学的に考察する力を育てていきます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立みさか小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
小	全 国	32.6	49.1	15.3	2.8
6	みさか小	36.2	46.6	17.2	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 調べ学習や発表活動を増やし、子どもたちが主体的に学べるよう工夫しました。その結果、約8割の児童が「自分で学び方を工夫できている」と回答し、全国平均と同等の成果となりました。
- 今後は、自分がどんな方法で学んだのか、どんな工夫をしたのかをノートに書いて振り返る時間を設け、「どのように学んだか」を子ども自身が言葉で説明できるようにしていきます。ご家庭でも、疑問に思ったことを一緒に調べたり、「どうしてそう考えたの？」と理由を尋ねたりする声かけで、主体的に学ぶ姿勢を支えていただけたらと考えています。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	全 国	12.1	12.8	29.1	27.4	12.9	5.7
6	みさか小	6.9	13.8	36.2	25.9	15.5	1.7

(単位 %)

【考 察】

- 本校では、「10分 × 学年 + 10分」を目安に家庭学習の習慣化を図り、宿題の工夫や生活ノートの活用を進めてきました。その結果、「1時間以上学習している」と回答した児童が約5割に達し、全国と同等の水準となりました。
- 今後は、学年に応じた適切な課題に加え、自分で考えたり振り返ったりする活動を通して、学習の“量”だけでなく“質”の向上を図っていきます。ご家庭でも、例えば「どうやって解いたの?」「他にもやり方あるかな?」などと問いかけることで、思考力を育てる関わりをお願いいたします。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小	全 国	31.2	48.2	17.1	3.3
6	みさか小	34.5	44.8	19.0	1.7

(単位 %)

【考 察】

- 学習日記等での振り返りや、ロイロノートを活用した整理活動を通して、「何が分かり、何が分からなかったのか」を意識する学習に力を入れてきました。その結果、「見直して次につなげている」と感じている児童が約8割にのぼり、全国平均を上回る結果となりました。
- 今後も、単元ごとに「できたこと・課題」を具体的に記録し、自分の学びを見直す力をさらに高めていきます。ご家庭でも、「今日はどんなことを勉強したの?」といった声かけから始め、「どこが分かった?」「どこで迷った?」と話を広げることで、自然な振り返りの習慣づくりを支援していただければと考えています。

4 学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書しますか。

		2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	全く しない
小	全 国	6.4	8.8	15.9	22.1	17.4	29.2
6	みさか小	6.9	5.2	24.1	27.6	17.2	19.0

(単位 %)

【考 察】

- 朝読書や読み聞かせ、読書週間の取組を通じて読書習慣の定着を図りましたが、メディア利用の増加により読書時間が減る傾向も見られます。約6割の児童が1日30分以上読書しており県・全国よりやや高い水準です。
- 今後は読書感想の交流やおすすめ本の紹介を充実させ、「読むことの楽しさ」を実感できる活動を広げていきます。ご家庭でもメディア時間を調整しながら、親子で読書の時間を意識的につくるなどご協力をお願いします。